

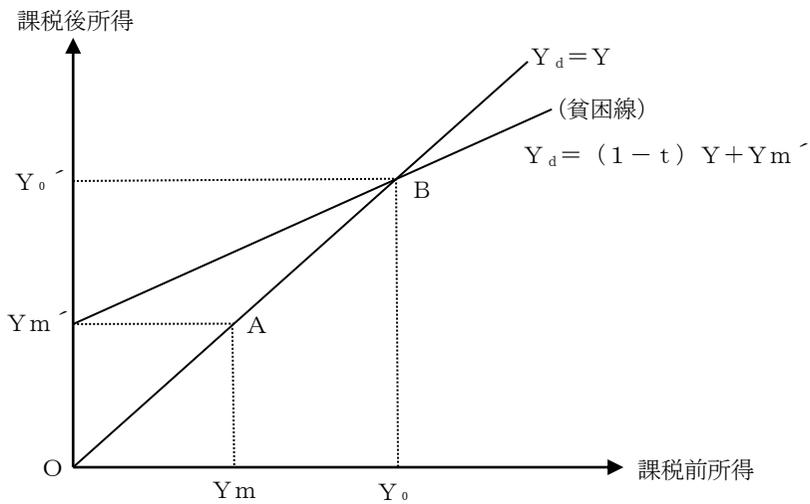
## 公共経済学（第6回）

担当 橋本 悟

### （復習）フリードマンの負の所得税

社会保障と租税制度を同時に行う政策

45度線と貧困線を描き、交点より多い所得の場合は課税が行われ、少ない所得に対しては補助金が支給される。



最低補償所得水準： $Y_m$

課税最低所得： $Y_0$

$Y_0$ より所得が高くと、所得税が課税される。

$Y_0$ より所得が低いと、負の所得税（補助金）が支給される。

（メリット）租税と社会保障を統合している。

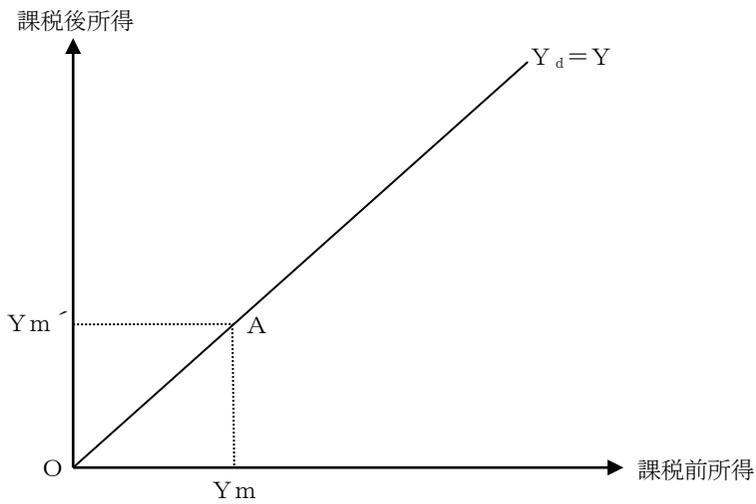
労働供給を阻害しない。

（デメリット）多額の財源が必要になる（ $Y_m O B$ の部分）。

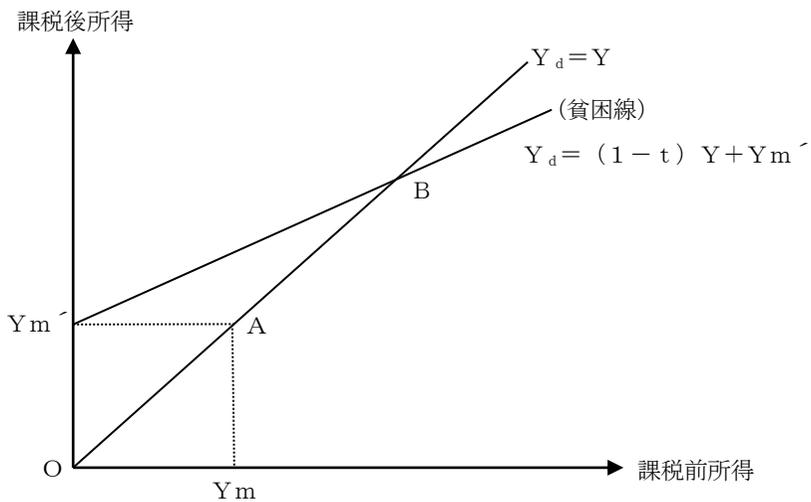
インフレを招く懸念がある。

(確認)

1. 課税がないときの所得のラインを表す線を引く。

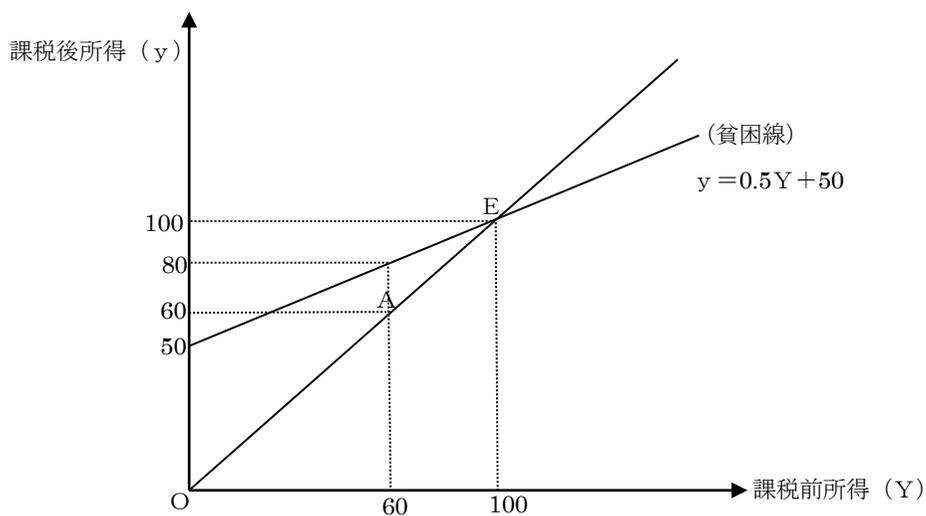


2. 貧困ラインを表す線を引く。貧困ラインより上側の所得の人は「課税」され、下側の所得の人は「補助金」が支給される。



(演習問題) ある国において、最低保障所得が 50、課税最低限所得が 100 である。所得の収支分岐点に対応する所得水準が課税最低限所得とした場合、ある人の課税前所得が 60 であるとき、この人のフリードマン型の負の所得税額として、正しいのはどれか。

(解答) 貧困線の式を求めて、その式に  $Y=60$  を代入すればよい。貧困線は切片が 50、傾きが 0.5 より、図のようになる。よって 20 になる。

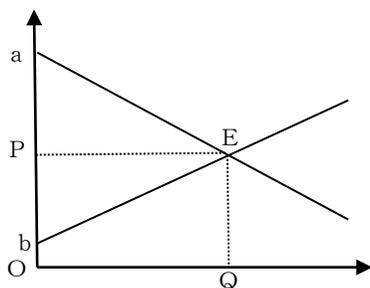


(復習) 余剰分析 (消費者余剰、生産者余剰、総余剰)

消費者余剰：消費者が支払ってもよいと考える金額と、実際に支払った金額との差額

生産者余剰：生産者が市場で販売したいと思っている価格と実際に販売した価格との差額

総余剰：余剰の総和 (大きいほど市場は効率的になり、完全競争市場の均衡では最大になる)



消費者余剰：aPE

生産者余剰：bPE

総余剰：abE

### 3. 従量税の課税と余剰分析

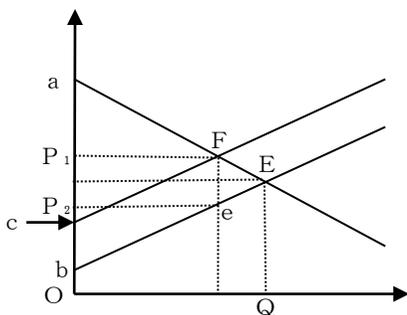
従量税を課税すると、供給曲線が平行に上にシフトし、余剰損失 (非効率) が発生する。

従量税：財 1 単位当たりにかかる税

例：たばこ税、酒税など

$$P' = P + t$$

$P'$ ：課税後の価格、 $P$ ：課税前価格、 $t$ ：税額



(課税前均衡点：E 点、課税後均衡点：F 点)

総余剰：a F e b

消費者余剰：a F P<sub>1</sub>

生産者余剰：b e P<sub>2</sub> (c F P<sub>1</sub>)

税収：P<sub>1</sub> F e P<sub>2</sub> (c b e F)

余剰損失：F e E

※余剰損失のことを「死荷重」ともいう。

(価格規制)

何らかの保護のために、価格を高く、または低く維持する政策を行うことがあるが、余剰分析から検討すると望ましい政策とは言えない。

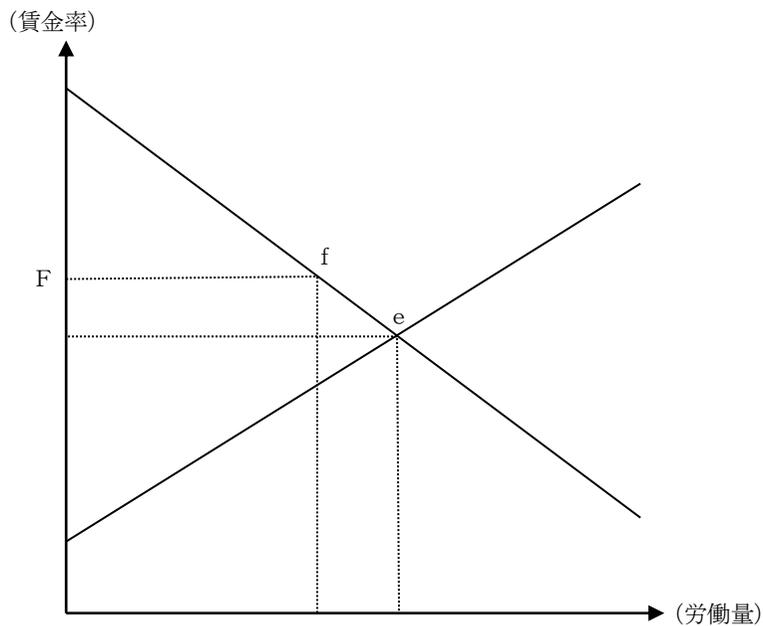
①最適賃金政策 (古典派の労働市場で考える)

労働者の保護のために賃金率を高くする政策を行う。しかし、需給がバランスする均衡点よりも高い賃金率を設定すると総余剰が減少するため望ましくない。

労働者保護のために、最低賃金を法律で定める。

↓

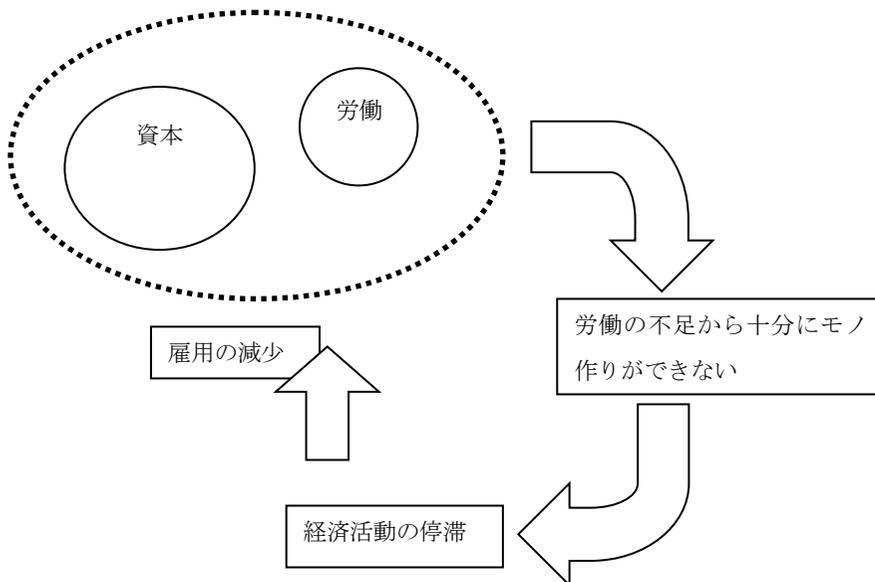
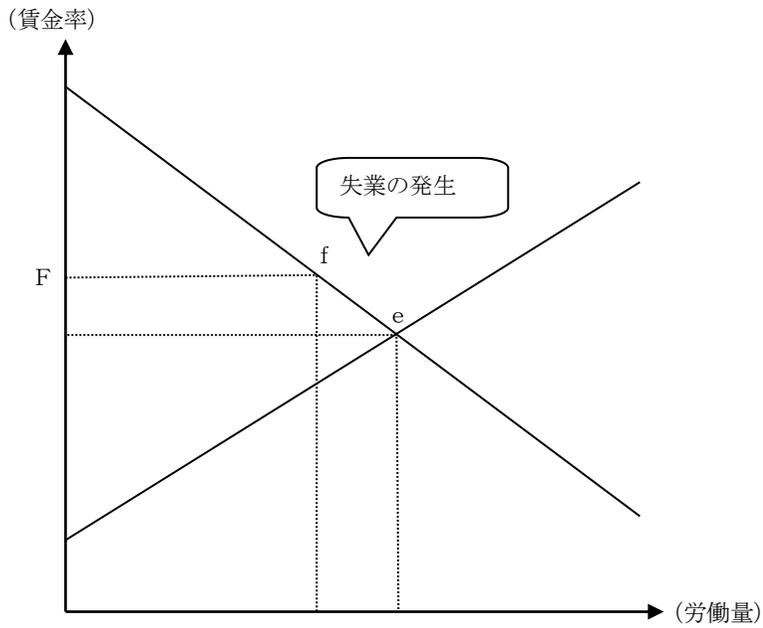
しかしあまりに高い最低賃金は、死荷重を発生させる。



F 点に最低賃金を設定すると、死荷重が発生してしまう。

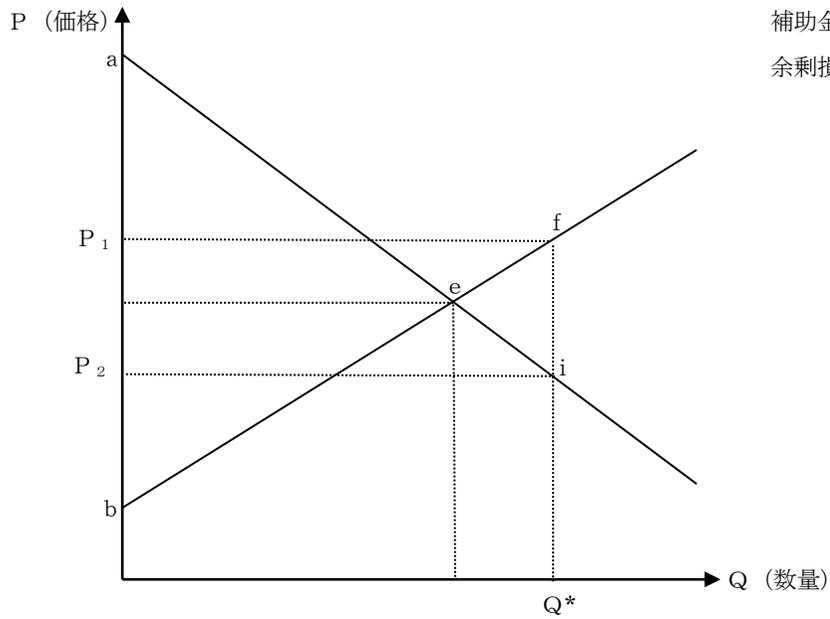
(参考)

高い賃金に固定すると労働供給が減少して経済活動が停滞する。



(二重価格規制)

生産者価格を高く、消費者価格を低く設定する。この場合、死荷重が発生して、この財の市場は非効率になる。



消費者余剰 :  $\triangle a i P_2$

生産者余剰 :  $\triangle b f P_1$

補助金 :  $\square P_1 P_2 i f$

余剰損失 :  $\triangle e f i$

(二重価格規制) その2

かつてのコメ政策のように、買取価格が高く、販売価格も高い場合は、買取数量が販売数量を上回り、売れ残り（在庫）が発生する。その在庫は最終的に廃棄処分されるためすべて無駄となる。

